

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 4名回答、回答率 100%
保護者様： 15名回答、回答率 83%

職員の意見

○環境・体制整備

教室全体の導線が分かりやすくなる様に配置換えを行なった為、児童らの適切なスペース確保を行なえている。中高生向けの学習スペースとしてテーブルと椅子も導入し、より学習しやすい環境を作っている。体格の大きい児童が多い日には、狭さを感じることもある。

○業務改善

日々ミーティングを行うことで、職員全体で支援について話し合うことが出来ている。保護者からの連絡事項などもミーティングにて共有をするように努めているが、日々扱う情報量も多いため、共有漏れがないよう工夫していきたい。

○適切な支援の提供

個別支援計画の面談以外での時間にも相談支援のお時間をいただくことで、同じ方向性を持って支援に当たれるようにしている。また、児童の支援についてミーティングでより細かく共有をすることで職員同士も同じ方向性を持った適切な支援に当たれる様にしている。

○関係機関や保護者との連携

サービス担当者会議は中々実施する機会をもてていないが、保護者の要望に応じて、学校や関係機関と連携をし情報共有を行なっている。保護者とは相談支援を通じて細かい情報共有に努めている。

○保護者への説明責任等

夏に療育参観を行い、多くの保護者の方に療育の様子を直接見ていただくことができた。保護者会は準備時間の確保ができず、実施が出来なかったため、保護者同士の交流の場として実施できるように計画をたてていきたい。保護者に説明が必要な事項については、漏れなくお伝えが出来るように努めている。

○非常時等の対応

毎月避難訓練を実施し、児童とともに危機管理ができるようにしている。また、定期的に職員は虐待防止研修を行う事で共通認識が持てるようにしている。また、適宜ヒヤリハットを作成し、職員間で共有をしている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

「もう少し場所が広いと子どもたちが動きやすそうな気がする」「入口にスロープがないので、車いすの方は利用が難しそうです」といった意見を頂いた。職員配置数や専門性については9割の保護者様に適切であるとご意見いただいた。

○適切な支援の提供

全てのご家庭から「子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されている」と評価いただいた。活動プログラムについても9割のご家庭から「様々な活動プログラムが計画されている」と評価いただいた。

○保護者への説明等

すべてのご家庭から「支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がされている」「日ごろから子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通認識が出来ている」と評価いただいた。

○非常時等の対応

ほとんどのご家庭から緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルについて適切であると評価いただいたが、「どちらともいえない」というご意見が数件あった。

○満足度

全てのご家庭から「事業所の支援に満足をしている」と評価いただいた。9割以上のご家庭からも「子どもは通所を楽しみにしている」と評価いただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・児童の様子について日々児童共有シートを用いて情報の伝達が安定する様にする事で、情報共有を確実にやっていく。
- ・ヒヤリハットを職員全員が月に一度提出をする。
- ・児童それぞれに対して統一した支援が行なえる様に支援検討を策定会議だけに限らず検討・研修出来る時間を設ける。
- ・ブログを月ごとに担当を決めて更新をしていく。
- ・教室内研修にて非常時の対応方法をより熟知出来るようにし、保護者周知として年度毎に保存版のマニュアルを共有する。
- ・中高生の多い曜日に関しては、療育活動の工夫を行い実施していく。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・職員間で事前ミーティングをほぼ毎日実施することができ、児童の様子について細かく共有することはできている。より効率的に情報共有を行うシステムを検討していきたい。
- ・ブログの更新が滞る時期が発生していた。
- ・保護者に向けた非常時対策の周知は行っていたが、計画的な周知ではなかった。
- ・中高生の利用者へ配慮した環境整備は行うことができたが、療育活動の内容や目標設定には更なる工夫が必要

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・家庭連携や事業所内相談を通して、ご家庭への支援の充実化や密な連携につなげることができている。
- ・日々の職員ミーティングによって職員間で支援の統一を図ることができている。
- ・療育活動を職員全員で行うことで、偏りがなく毎月実施出来ている。
- ・職員間で意見交換がし易く、支援計画の内容や療育活動の検討をチームで行なえている。

○改善点

- ・職員が教室内の業務にスムーズに対応できるように、業務の整理を行っていく。
- ・保護者会の開催により保護者間連携を支援する。
- ・中高生に向けた療育活動を設定をし、月に1回は実施する。
- ・ヒヤリハットを職員全員が意識し、こまめに事例を共有しあうことでより安全な支援の実現をめざす
- ・ブログを活用した定期的な活動報告を行っていく。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・業務の整理・効率化により、情報共有漏れをなくしたり、支援の検討時間をしっかり確保することで、よりよい支援の実現を目指す。
- ・ヒヤリハットの作成と事例の共有をこまめに行い、より安全な事業運営を目指す。
- ・ブログの更新により教室内での取り組みの様子を周知し、透明性の高い事業運営を目指す。
- ・中高生に特化した療育活動プログラムを検討し、学齢に応じた専門性の高い療育活動の実施を目指す。

○1年間で取り組む具体策

- ・業務のシステム化を行い、スムーズな業務運営が出来るようにデータ化をしていく。
- ・毎月目標件数を定めてヒヤリハット事例の作成と共有を行う。
- ・社内研修や教室内研修への積極的参加をもって職員一人ひとりの専門性を高めていく。
- ・日々の業務前ミーティングの実施により、常勤職員全体での情報共有を継続していく。
- ・教室内での療育ミーティングを月に一度行い、その中でブログ記事の内容を決め、担当者を決めて更新していく。
- ・中高生への支援の一環として、就労に向けた訓練を活動に取り入れる。